

# 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業

愛知県立千種高等学校 齊藤雅

3/23

このバンコク都派遣事業には自ら希望して参加したのですが、家を出る時はまだ一度しか会ったことない人たちと海外で一週間過ごすことが少し不安でした。でも中部国際空港で集合した後、色々話をしているうちにすぐに打ち解けることが出来て不安だった気持ちはなくなり期待がどんどん大きくなりました。そして「本当にバンコクに行くぞ！」という実感が湧いてきました。そしてバンコク



クに着くと景色、言語、気候といった日本との違いをすぐに感じました。もうすぐタイは一年で一番暑い時期になるそうでモワモワとした空気に驚きました。空港からホテルへ移動しその日の夕食はタイ料理をいただきました。本場で食べるタイ料理は香辛料が効いていて口が痛くなるほど辛い物や酸味が強いものが多くありました。

3/24

午前中はバンコク都の副知事の方への表敬訪問がありました。初めてのタイ語での自己紹介で伝わるか不安でしたが、バンコク都の方々が笑顔でうなずいてくれたのでほっとしました。期待に応えるためにもこれからの活動を頑張ろうと思いました。午後はタイの文化体験ができるルンピニーユースセンターでタイの音楽、伝統工芸、ダンス



の体験をしました。タイのダンスは日本の盆踊りのようでした。またタイの楽器はたくさん種類がありすべては体験できませんでしたが、どれもタイの楽器独特の音が鳴っていてきれいでした。他にもタイの鬼のマスクを作ったり、タイの

匂い袋をつくったりしました。そのあと夕食をバンコク  
の中心地のサイアムスクエアというところで食べまし  
た。とても活気にあふれて人がたくさんいて賑やかでし  
た。そこでは日本の食べ物や雑貨の店が多くあり、多くの  
日本人がバンコクで暮らしているのだと思いました。



### 3/25

廃材を再利用したものづくりワークショップの  
Fab Café TCDCにて環境のことについて学びまし  
た。そこの方々はしっかりと自分の考えを持って行  
動していることが伝わってきて環境に対する取り  
組みの熱心さが伝わってきました。私たちはここで  
廃棄プラスチックをリサイクルして使ったビンの  
蓋を作りました。プラスチックについていた色を上  
手く利用して、鮮やかでいいものにつくりかえてい  
るのは工夫されていると思いました。



### 3/26



<植樹>

午前中は植樹活動でした。ベンジャキティ公園のスカ  
イウォークからは大きな池や森林などのきれいな自  
然を眺めました。池には蓮の花が多く咲いていました。  
近くではタイの学生が写真撮影をしていて、タイで人  
気のある写真スポットだと知りました。昼食前にタリ  
ンチャン水上マーケットを訪れました。そこでタイの  
お土産を買ったり、マンゴースムージーを飲んだりし  
ました。マンゴース  
ムージーはとても甘

くておいしかったです。他にも日本では目にし  
ない南国の果物が色々売られていて美味しそ  
うでした。午後はコー・クラン・コミュニティ  
訪問でした。小さな島にあるコミュニティで  
す。そこでは人々が自給自足の環境に良い暮ら



<コー・クラン・コミュニティ>

しをしていました。ゴミの分別や3R（リサイクル・リユース・リデュース）が全ての家庭で徹底されていました。コミュニティの説明をしてくれた人が、綺麗な環境を保つためにはみんなで結束して行動することだとおっしゃっていました。物事を成し遂げるためにはこの環境のことに限らず大事なことだと思いました。夕食はチャオプラヤ



川でのクルージングをしながらいただきました。タイならではのキラキラとした寺院や多くの高層ビルを見ながらの夕食は最高でした。最後にナイトマーケットのアジアティーク・ザ・リバー・フロントで買い物をしました。レストランやお土産屋さんが多くありました。

### 3/27

この日は私が一番楽しみにしていたウィチュテット高校の訪問でした。現地の生徒に会うのはこのような派遣でしかないものなのでどのようなものなのかとわくわくしていました。実際にいってみるととても歓迎して下さり嬉しかったです。タイの学校の子たちがやってくれたダンスはとても綺麗でしたし、タイのお菓子作りやムエタイは初めてであたふたしてしまったところがありました。昼食はパッタイとマンゴースティッキーライスで、タイ料理を食べながらタイのことたくさん話



せてより仲が深まったと思いました。私たちが日本の遊びを教えたときもタイの子たちが笑ってくれているのを見て私も笑顔になりました。みんなでやったスポーツは国籍関係なく一つになれたような気がして、一体感が気持ちよかったです。言葉が伝わらない時も一生懸命に伝えようとして相手

も理解しようとしてくれれば言語は関係なく気持ちは伝わるということを感じました。タイの学校の子たちとも仲良くなれたので別れる時は悲しかったです。また会いたいです。

### 3/28

豊田合成アジアに訪問させていただきました。豊田合成は日本の会社なので、てっきり日本人の社員が大半を占めていると思っていましたが実際は十数人しかおらず、タイ人の社員が主体となって働いていることに驚きました。工場がきれいなのも、作業効率がいいのもルールに従って全従業員が行動し、出来てない人がいたら注意する、そして注意してくれたことに対して感謝が出来る関係にあるからだとおっしゃっていました。まるで家族みたいな関係であるから出来ることだと思いました。この日はみんなとタイでタイ料理を食べることが出来る最後の夕食でした。もう終わってしまうと思うだけで悲しかったです。最後の最後までタイを満喫できてよかったです。

### ～バンコク都派遣事業に参加して～

私は派遣事業を通じて机の上だけでは学べない多くのことを学びました。バンコクでの一週間は、多くのことを学び、多くの人々との素晴らしい出会いがありました。この経験を通じて自分自身を成長させ、新たな視野を拓け、将来につなげていきたいです。とても充実していて一週間が短く感じましたが、ここでの経験は私の人生にとって大きく忘れられない貴重なものです。派遣を支えてくれた方々には本当に感謝しています。そして一緒にタイの派遣に参加をした 12 人のおかげで楽しい時間を過ごせました。みんな、本当にありがとう！



<スワンナプーム空港>

## 2023年度愛知県高校生訪問団バンコク派遣事業

愛知県立中村高等学校 齋藤 優

私は今回バンコク都派遣事業に参加させていただきました。

長いようで短くずっと充実していたバンコクでの一週間を紹介します。

〈3月23日〉

バンコクに行くことへの実感がわいてきたのは、中部国際空港に到着してからでした。初めての海外であること、飛行機が無事着陸するのか、派遣までに一回しか会ったことがない子たちと仲良くなれるのかなどの不安と待ちに待ったバンコク派遣にワクワクする気持ちと共に、飛行機に乗ったことを覚えています。機内では周りの海外経験のある子に、何から何まで教えてもらったので、初めての飛行機で焦ることなく、過ごすことができました。



スワンナプーム国際空港に到着し、空港内を歩いていた時、搭乗案内も広告もお店のメニューも、見渡す限りがタイ語で溢れていることに気づき、タイに来たことを実感しました。ホテルに移動する車に乗るために、空港を出たとき、初めてタイの暑さを体感し、これから過ごしていけるか不安になりました(笑)

ホテルに到着し、夕食にはバンコク都の方がレセプションパーティーを開いて、歓迎してくださいました。私たちのことを本当に快く向かい入れてくださっていることが、わかってうれしく感じ、これからのバンコク都研修が楽しみにになりました。



この夕食会では、初めて日本食とタイ料理のギャップを痛感しました。特に、左の画像ではおかずのプレートの中央にある容器に入っていたトムヤムクンのようなスープが私はすっぱく感じて、少し苦手でした。ですが、この激しすぎるギャップに少し面白さを感じて、バンコク研修内でのご飯はなんでも挑戦してみるという目標を立てました。私にとって初めての経験が詰まったとても新鮮な一日でした。

〈3月24日〉

いよいよこの日からバンコクでの活動が始まりました。まずはバンコク都の副知事のもとへ表敬訪問をしました。副知事は想像していた何倍もフレンドリーな方で、驚きました。私たちのタイ料理のことから環境問題のことまで幅広い質問にも一つ一つ真摯に答えてくださって、うれしかったです。





午後からは、ルンビニーユースセンターでタイの文化体験をさせていただきました。タイの伝統的なダンス、楽器、工芸品づくりまで、バンコクに旅行に來ただけでは味わうことができなかった経験をすることができました。私が特に印象に残っているのは、タイの伝統的なダンスの時間です。私は隣にいた先生にずっと教えてもらっていたのですが、タイのダンスの時間が終わった後、私に「ありがとう」と手を合わせてってくれたことが、すごくうれしくて、強く印象に残っています。また、私も「コップンカー」と積極的に使っていこうと思いました。

〈3月25日〉

この日はFab Café TCDCに行きました。主な活動としては、ガラスボトルのリサイクルキャップづくりを行いました。作り方の手順としては、カラフルなペットボトルキャップの色の組み合わせを考えて選び、それらを粉々にして、型に入れて、溶かし、固め、やすりがけという手順です。ボトルのキャップからできているとは思えないくらい完成度が高く驚きました。



また、溶かし、固める待ち時間には自分の名前に沿って紙に穴をあけて、自分の名前のオルゴールの音を聞いたり、Fab Café TCDCの施設内を見学したりしました。施設内で見学で特に印象に残ったのは、小型太陽光発電機です。これらは手のひらほどの小型サイズで、直射日光がよく当たる屋上にありました。これは簡単に取れるようになっていて、災害時の時に使えるようになっているそうです。ヒマワリの形のデザインになっていて、機能性だけでなく、見た目としてのアイデアも素敵だなと思いました。

〈3月26日〉

この日は午前中にベンジャキティ公園で植樹体験をしました。植樹体験をするのは人生で初めてだったのですが、体験自体はシンプルでした（笑）ですが、バンコクという都市が私にとって特別なものとなった要素の一つであると思います。また、植樹体験の際付き添ってくれていた通訳さんがペットのワンちゃんのお散歩に来るときに見るねと言ってくれたことが、日本に帰ってもバンコクとつながっているようでうれしかったです。



また、この日は水上マーケットにも行きました。このマーケットでは、私がタイに訪れる前に想像していたタイの屋台風景が広がっていて、おもしろかったです。また、お店の人にパーツを渡して、お買いものをして、「コップンカー」と挨拶までできたので、よかったです。また、タイにいるうちに、「コップンカー」という機会が多くなり、自然に出るようにならなってきた時には、自分でもびっくりしました。

アクセサリから石鹸、カバンまで様々なお土産も購入できました。屋台ではココナッツのプリン、タイ式クレープやココナッツアイスが乗ったパンなどストリートフードを満喫できました。



午後には、プラカノン運河内の小さな島にあるコー克蘭コミュニティに行きました。タイの中でも積極的にごみの分別を行ったり、使用済み油から石鹸や洗剤を作ったり、生ごみを土壌として再利用していたり、環境保全に努めていらっしゃいました。特に、プラスチックのキャップをリサイクルして鉢を作ったことは楽しかったです。キャップを粉々にして、溶かして、棒状にし、陶芸のように、机を回して、型に寄せながら、鉢にしていきます。環境保全をしながら、自給自足の生活をしつつ、リサイクル商品を売ったり、アプリを導入して、ごみの量に応じて、お金が振り込まれるシステムを利用したり、利益まで生み出していて、感銘を受けました。



そのあとは、アジアティークザリバーフロントで、私はタイパンツとスイカジュースを購入しました。タイパンツは、現地の服装なだけあって、素材が薄く、本当に涼しいです。私はずっと飲みたかったスイカジュースは、いやな砂糖感がなく、とてもおいしかったのですが、日本でいうLサイズがサイズを選択なしに出てくることに驚きました。



夕食のディナークルーズは、ごはんよりも船から見える景色が強く印象に残っています。すれ違う船に乗っていた人たちが、たくさん手を振ってくれて、非日常のコミュニケーションもとても楽しかったです。この日はバンコク都の方や通訳さんとの最初のお別れがあったので、初めて日本に帰る時を考えて、少し寂しくなりました(笑)

〈3月27日〉

この日はウィチュティット高校を訪問しました。校舎に入る前から、たくさんの方が私たちのことを向かい入れてくださって、プアンマーライ（タイ語で花輪）を首にかけてくれて、一緒にタイの伝統的なダンスを踊りました。突然のなれない歓迎に緊張していましたが、ヘアの子が丁寧に教えてくれたおかげで緊張が楽しみに変わったと思います。



校内に入ると、歓迎会を行っていただきました。私はこの歓迎会でタイ語での挨拶をすることになっていたので、とても緊張していましたが、通訳さんが沢山練習してくださったおかげで、タイ語での挨拶をやりきることができました。私の挨拶にウィチュティット高校の方々が一つ一つ反応してくださったのも、私の言葉がタイ語として伝わっていることを実感できたので、うれしかったです。

ウィチュティット高校では、タイのお菓子「カノムクロック」を一緒に作りました。カノムクロックは形や食感、焼く機械などはたこ焼きそっくりな、ココナッツミルクで味付けされている甘い伝統的なお菓子です。生地は甘いのですが、具材にはネギやコーン、ハムなど想像できない組み合わせですが、意外とおいしくてびっくりしました。



また、タイの伝統衣装を着させていただきました。すべての衣装がカラフルで、ヘアの子が選んでくれた衣装もかわいかったです。ただ、着物のように一人で着ることは難しく、着付けの先生が着せてくださいました。衝撃的だったのは、ズボンがただの布からできていて、腰に巻いた後に足と足の間から布を引っ張ってズボンにしていたことでした。そのため、座る、立つという動きが大変でした。

〈3月28日〉

いよいよ最終日、この日はまず寺院を訪問しました。あまり宗教になじみのない私にとっては新鮮な場所でした。右の写真の男性はタイの王様、ラーマ10世で真ん中の金の像は仏様です。足の裏は不浄とされるため、参拝の際には仏前に足の裏を、見せないように座るそうです。



そのあとに、豊田合成アジアを訪問しました。ここでは、豊田合成アジアの理念から製造工程、自動化のマシーンについてと沢山のことを学ばせていただきました。私が一番印象に残っているのは、「KTK アクティビティ」という活動です。タイ語での *khón phóp* (見つける) *tuán* (注意する) *khòp khun* (ありがとう) の頭文字をとって、KTK アクティビティです。一緒に働いている者同士で間違いを見つけて、注意する、言われた側も言ってくれてありがとうと感謝

するそんなお互いを尊重しあえる関係は素敵だなと思いました。また、工場内には手作りの机やベンチが置いてあったのですが、自分が作ったものを大切にするという姿勢から、とてもきれいに使われていて、とてもいい文化だなと思いました。

〈番外編〉

トイレの性別標識のマークは日本と同じものが多いですが、色で男女を区別しているほうが、珍しいくらいタイでは、男女ともに同じ色であることが多かったです。さすがLGBTQ先進国だなと思いました。私も最初は戸惑いましたが、案外すぐマークだけで判断できるようになりました。



私たちが grand fortune hotel bangkok に夕食を食べに行った日（3月25日（土））が earth hour（世界自然保護基金による国際的なキャンペーンで、3月の最終土曜日に一時間電気を使わないイベント）が行われており、厨房以外の電気が落とされて、キャンドルになっていました。タイでまた夏の日本でもエアコンを落として、節電をするのは厳しいので、こんな日が定期的にあってもいいのではないかと思います。

昼食でショッピングモールに行った際、日本のスシローやユニクロという大手ブランドや日本語の広告、日本製の商品を沢山見かけました。右の写真の方は日本が大好きな方で、主に日本の駄菓子を販売していました。このショッピングモールでタイが親日国だといわれていることを実感しました。広告については日本語が読めるというより、日本語が書いてあるから日本のものという判断基準の一つであるようです。



これはスーパーマーケットでのお肉の写真です。私が本当に衝撃的だったのは、お肉がパックに入っておらず、そのまま直接置かれていて、自分でお肉を選ぶシステムです。通訳さんに聞いてみると、自分でお肉を選ぶシステムは高齢の方に多い傾向があり、選ぶよりパックのほうが30%ほど値段高い傾向がありますが、衛生面を気にかけている人はそれでもパックを選ぶそうです。



これは **café Amazon** で飲んだタイティーの写真です。ウィチュティット高校でのカフェでも作らせていただいたのですが、まずオレンジ色が鮮やかで、牛乳やコンデンスミルクが沢山入っているので、すごく甘く最初に飲んだ時はびっくりしたのですが、お茶の香りと甘さが個人的に私は日本のミルクティーよりも好きでした。皆さんもタイに行った際はぜひ飲んでみてください。

〈最後に〉

まず、私たちに貴重な機会を設けてくださり、沢山の準備をくださった愛知県庁の方、私たちを快く迎え入れてくださったバンコク都の方、この研修がなかったら出会うこともなかった12人、私にたくさんタイの文化を教えてくれて仲良くなれたタイの方々など、このプロジェクトにかかわってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。私の初めての海外経験がタイで、この研修でよかったです。私の人生にとって、かけがえのないものになりました。本当にありがとうございました。ขอขอบคุณ



# Aichi -Bangkok High School Student Exchange Program 2023

愛知県立瀬戸西高等学校 松原千夏

## ～ Day 1 ～ 中部国際空港 出発

私はこの派遣事業が初めての海外経験ということもあり、不安やこれからの活動にワクワクしている気持ちで溢れていました。私は、空港に到着したときに自分が乗る飛行機を見た瞬間、「私は、今から自分が今まで知らなかった世界に行く」という実感が湧きました。

私は、この経験を通して、成長して帰ろう！と強く思いました。

タイへ到着すると、とても蒸し暑く風があまり無かったので日本の夏よりも暑く感じました。その後の、ホテルまでの移動で、タイの交通は日本と違い、差が大きくビックリしました。1つは、バイクの数がとても多く車スレスレでぶつかりそうになっている事でした。追い抜く事が普通で、ヘルメットもしていなく、二人乗りが多く危ないなと感じました。他にも、パンやバナナを食べながら走っているバイクもいたので、そこは面白かったです。ですが、タイは日本と比べて事故が少ないことを知り、とても驚きました。



ホテルでの夜ご飯は、タイ料理でした。日本料理と全然違い、口に合わないものが多く食べるのに苦戦しました。

トムヤムクンに挑戦したのですがパクチーの味が強く食べれなかったです。タイ米を初めて食べ、日本米はやっぱり美味しいなと実感しました。フルーツは、パパイヤとスイカとパイナップルが出されてとても美味しかったです。ここで、これからタイでの食事が大丈夫なんだろうかと不安に感じました。

## ～ Day 2 ～

## バンコク副知事表敬訪問

## ルンピニーユースセンター

2日目には、バンコク副知事表敬訪問がありました。

バンコク庁は立派な外観で中に入った瞬間、立派なお部屋に緊張を感じました。そして自己紹介をタイ語で一人ずつさせてもらいました。バンコク庁の方々に自分の自己紹介や質問を答えて頂く機会は中々ないので、貴重な経験をさせていただいてるなと思いました。バンコク庁の方々は、話を親身に聞いてくださって、温かい人ばかりでした。副知事の方は、お若くてハンサムな上にとても話しやすく気さくな方だったので、記念に写真も沢山、撮っていただきました。バンコク庁の方々から、刺繍入りのかばんを頂きました。とても可愛く嬉しかったです。大切な宝物になりました。



ユースセンターでは、タイの文化や音楽、ダンスを学びに行きました。楽器を実際に演奏させてもらい、日本にはない楽器が沢山あるので、とても興味深く、吹奏楽部に所属していた私にとって、とても楽しかったです。他には、色んな色のドライフラワーや葉っぱを入れて作る伝統工芸品ポプリを作りました。作るのは少し難しかったけれど、楽しくお花のいい香りがしました。

夕食は、サイアムスクエアという日本でいう原宿のような場所でしゃぶしゃぶを食べました。タイに来て、初めて日本料理を食べて、日本の店と変わらないくらい美味しかったです。その後、お店の方がタピオカをサービスしてもらい嬉しかったです。他にも日本料理のお店や日本の看板があり親近感が湧きました。



3日目は、廃材を利用したものづくりワークショップの Fab Café TCDC に行きました。

Fab Café は、世界中に拠点を持っていて、日本にも東京や飛騨に拠点を持っているそうです。私達は、ここで、マイクロプラスチックを使い、ものを作らせていただきました。

ペットボトルのキャップの様々な色を組み合わせ、砕いたり削ったり焼いたりし機械を使って、作業しました。少し難しく、作ることに苦戦したのですが、教えてくれた方が優しく教えてくださいました。

私は、いつもなら捨てているものでも、使えるものに変えれる技術が発展している事は、とても凄いなと思いました。



夕食は、ホテルでディナーを食べました。とても、おしゃれな外観で、ロマンチックでした。

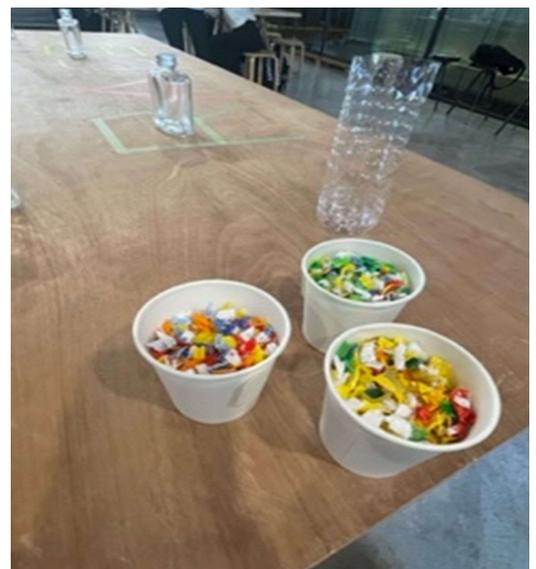
そして、日本でも見る美味しそうなものばかりでした。

私が、ここでびっくりしたのは、お刺身やお寿司があったことです。

私は、お寿司がとても大好きなので、嬉しかったです。

味も、日本の海鮮に負けないくらいプリプリしていて美味しかったです。

他にも、タイならではのココナッツアイスなどもあり、美味しかったです。



4日目はベンジャキティ公園に植樹をしに行きました。

周り一面が緑で、バンコク市内には緑が無かったので、とても新鮮でした。

東京ドーム15個分の大きさを持つことにビックリしました。

この公園は、散歩コースなどにも使われているそうです。

ここで、変わった鳴き声をする鳥を発見しました。「ふーいふーい」と鳴くのです。

気になったので、確認してみると、タイでよく見られる鳥だそうです。

リスなども居たので、とても新鮮でした。また何年後かに、この場所にもう一度来て、大きく成長した木を見に来たいなと感じました。それまでに自分自身も大きく成長していきたいです。



右の写真はタイのタクシーです。日本と違い色々な色の車があり私が見た中では、青、黄色、ピンク、緑を見ました。

このように、可愛い色のタクシーが多いので、乗りたくなりました。



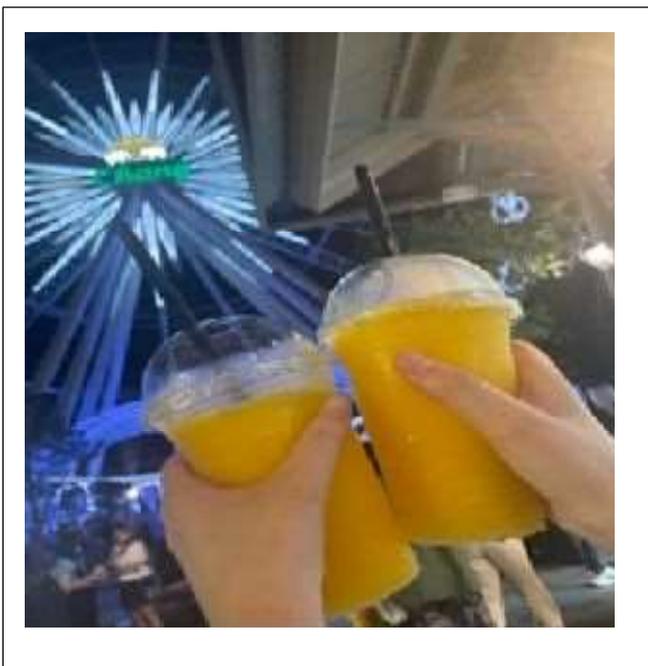
左の写真はいつも私たちの近くにいてくれた、タイ語を通訳してくれたパイちゃんです。パイちゃんは日本語がとても上手で、いつも笑顔で、話しかけてくれた方です。

そんなパイちゃんが、私達が箸を教えて初めて使えるようになった写真です。使えるようになった瞬間は、とても嬉しかったです。

その次は、環境学習に行きました。バンコク市内にある小さな島に行き廃棄物を減らしながら暮らしている生活を拝見し、バンコク市内でも大きな格差があることを知り、とても衝撃を受けました。廃棄物をリサイクルして、家具などに利用していることは、私の生活には馴染みがなかったです。でも、リサイクルをしながら生活する暮らしは住民にとって、幸せに暮らしているように感じました。



クルージング船での夕食は、初めてでしたが、美味しい料理が多く、景色もとても綺麗だったので皆で沢山写真を撮りました。その後は、念願だった、マンゴージュースを飲みました。マンゴ어의甘味がとても強く、美味しかったです。



## ～ Day 5 ～

## ウィチュティット高校訪問

5日目は学校訪問に行きました。初めて私達と同じ学年のバンコクの子と触れ合うということで、楽しみにしていました。学校に着くと、盛大な歓迎をしてくださり、とても嬉しかったです。

そして、タイの伝統的なダンスやムエタイを披露してもらいました。その後、タイのココナッツを使ったお菓子を一緒に作りました。食べてみると、とても美味しかったです。他にも、日本の昔遊びをバンコクの生徒とやらせてもらい、楽しんでもらえるか不安だったけど、楽しんでもらえていたので良かったです。一緒に参加できる遊びは、言葉がたとえ通じなくても、一緒に協力し楽しむことが出来ることを学びました。ずっと付き添ってくれたバディとは、最初は緊張して、中々話せなかったのですが、徐々に仲良くなり音楽の話や学校の話が沢山しました。こんなにも温かく迎え入れてくれた学校と離れるのは悲しかったです。本当に充実した一日でした。



## ～ Day 6 ～

## 豊田合成アジア 訪問

6日目は豊田合成アジアに行きました。会社の中に入れてもらったときに、日本人の方が多くビックリしました。ほとんどが日本語での会話だったので、少し日本を感じ居心地が良かったです。中々入ることが出来ない工場の中に入れてもらい、多くの機械で部品などをつくる姿が見られました。昔は、手作業でしていたことが今では、機械の技術が発展して、効率よく作業をする事が出来るそうです。どうしたら効率化することが出来るかを常に社員全体で共有していることを知りました。特に効率化を邁進しており、日頃の私の実生活にも組み込むことが出来ないかと思案することが出来ました。

帰りの飛行機の時間が迫ってきて、まだ、帰りたくないなと感じました。

出国手続き・搭乗手続きを終え無事日本へ帰ることが出来ました。

## *Through these activities*

この1週間、日本で学校に行っているだけでは学べない、沢山のことをこの派遣を通して学ぶことが出来ました。この派遣を通してでなければ合うことのなかった友達とともに、実際に体験をして学ぶことが出来て、本当に良かったです！お店に行ったとき、「クーポンカー」(ありがとう)と手を合わせて言ったとき、誰でも微笑みをかけてくれて、“微笑みの国”という名前の通りだと、強く感じました。タイで過ごした時間は、私にとって貴重な経験となりました。

この派遣を支えてくれた方々、仲間に感謝しかないです！！本当にありがとうございました！



## 愛知県・バンコク都 高校生交流事業

愛知県立尾北高等学校 1年 本間もも

### Day1

初めての飛行機で緊張しながら乗りました。離陸とときは、ついに日本の外に出るんだとやっと実感が湧きました。タイについてから初めて驚いたことは、トイレにトイレットペーパーを流せなかったことです。場所にもよりますが、

日本では流すことが当たり前なので、とても驚きました。空港からホテルに向かい、ホテルにチェックインしました。そこでは、私たちのためだけに用意してくださっていた夕食が準備されていました。それが初めてのタイでの食事でした。今まで食べたことない味がたくさんでとても新鮮でした。時差のこともあり初日は特に疲れていたもので、ぐっすり寝れました。



### Day2

バンコク都庁を訪問しました。そこではバンコクの副知事のバンコク都庁の方々とは会いしました。私たちが質問する時間があるって、そのときは質問に対してとても丁寧に細かく答えてくださったので、とても優しさを感じました。

最後は、お土産もくさってみんなで写真も撮りました。昼食後は、ルンピニーユースセンターというところでタイの文化について学びました。特に印象に残っているのは、タイの踊りです。今までしたことないような手の動きや足のリズムの取り方で、私は難しく感じました。でも、施設の方が丁寧に教えてくださったおかげで、私でも少し踊ることができました。夜はサイアムスクエアという大きなショッピングモールに行きました。名古屋とは比べ物にならないくらい大きくて驚きました。



### Day3

ファブカフェに行きました。環境に優しい製品として、捨てられたペットボトルキャップを新たなキャップとして作り直して、オリジナルの瓶を作りました。瓶の部分には自分の好きな絵や写真をつけて、それぞれ自分の好きなように作ることができたので、楽しくできました。夕食は少し高級なホテルのブッフェを食べました。夕食の途中で電気の明かりが小



さくなり各机にキャンドルが置かれた時間がありました。最初はそういう演出だと思っていたのですが、Earth Hour という時間で節電をしていました。私は Earth Hour という存在をそもそも知らなかったのも、まだ自分には知らないことがたくさんあると改めて認識し、もっと自分から知ろうという姿勢が必要だと思いました。

#### Day4

ベンジャキティ公園に行って、植樹体験をしました。みんな一つずつ小さい木を植えて、水やりもしました。何年後かにこときの成長を見にまたタイに来たいなと思いました。植樹体験が終わった後は、水上マーケットに行きました。初めての値切り交渉を体験しました。緊張したけど、お店の方が安くしてくれました。また、値切り



はしなかったけど、石鹸をたくさん買ったときにおまけとって一つ石鹸をくれました。とても優しさを感じて温かい気持ちになりました。午後にはコーランコミュニティを訪問しました。普通私たちがゴミとして扱っているものを、再利用して彼らの生活に役立てていました。また、節約をしようと生活必需品を自分たち

で作るといこともしていました。みんながこの生活様式にすることは難しいと思うけど、少しでも環境のことを考えて行動する人が増えれば、もっと地球を守ることができると思いました。夕食は、アジアティークザリバーフロントに行つて、クルージングディナーを楽しみました。夕日も楽しみながら、みんなでたくさん写真も撮りました。とても綺麗でした。ここでは、マンゴージュースも飲みました。タイで絶対に飲みたいと思ってたので、嬉しかったです。安くて美味しく最高でした。



#### Day5

バンコクのウィチュティット高校を訪問しました。演奏や踊りで盛大に歓迎してくれて、圧倒されました。校舎の中に入ってから、いろんな種類のタイの伝統的な踊りを踊ってみてくれました。小学生ぐらいの子たちが笑顔で一生懸命踊っていたので、とても可愛かったです。その後は、タイ



の文化を学ぶために2つのグループに分かれて行動しました。高校では紅茶やコーヒーを販売しているところがあり、そこで自分の好きな飲み物を作りました。私はタイティーを作りました。初めて飲んだのですが、甘くて美味しかったです。



す。その場所では、生徒がバイトができるようで、日本では大抵の高校がバイトを禁止されているので、日本との大きな違いだと思いました。タイのお菓子も作りました。とてもたこ焼きと似ていました。作る機械もたこ焼き機のように、驚きました。で

も、味はまったく違いました。生地はココナッツミルクが含まれていて、とても甘かったです。美味しかったです。その後は、タイのシーラーイという民族衣装を着ました。少し歩きにくくて、タイの子たちは普通に歩いていたのがすごいと思いました。ロイクラトンというタイの文化も体験しました。クラトンというものを水に流して、川の女神に感謝して、同時に穢れを水に流すという文化です。ことクラトンも環境に悪い影響を与えないように、魚の餌になるような材料で作りました。お昼には給食も食べました。デザートとしてココナッツミルクで味付



けされたお米が出てきました。お米をデザートにするという発想が今までなかったので、とても新鮮でした。昼食後は、日本の文化をタイの子たちに体験してもらいました。私はメンコを紹介しました。みんな苦戦していましたが、その中でもみんな楽しんでくれている様子で嬉しかったです。最後は、チェアボールというバスケットに似たスポーツをしました。みんなで協力して、たくさん汗をかきました。言葉の壁を超えて、みんなで頑張れたことがとても嬉しくて、いい思い出になりました。



## Day6

最後のタイでの朝を迎えました。ホテルをチェックアウトした後、ローカルなお寺に行きました。その後、豊田合成を訪問しました。工場の見学もすることができました。工場での作業のほとんどがロボットで行われていました。これはタイ現地の人のアイデアだそうです。働いている人が、自分たちでどのようにしたら作業効率が上がるかを考えて提案したそうです。何をすることも自分ごとと捉えて、考え、行動することは大切だと感じさせられました。タイの最後の夕食を食べました。食べ終わってからはたくさん写真を撮りました。夕食も終わって空港に向かいました。空港で最後の挨拶をしました。泣いて別れを惜しんでくれる方もいて、私も泣いてしまいました。本当に良い方々に出会えたと思いました。



## Day7

朝、日本に戻ってきました。空港で最後の話をみんなでしました。一人ひとり自分たちの言葉で、みんなに感謝を伝えました。

### まとめ

初めての飛行機。初めての海外。初めてのタイ。初めての他校の友達と。初めてのことがいっぱい不安がたくさんの中でのタイでした。最初は、犯罪が多そうという勝手なイメージがありそれとても不安でしたが、帰ってきてからは、またタイに行きたい！という気持ちになりました。自分がタイに行っていなかったら絶対に持つことがない感情だったと思います。本当に多くの学びがあり、たくさんの方と出会い、大切な時間を作ることができました。バンコクではたくさんの優しさに触れて過ごすことができました。実際には知らないのに勝手なイメージを持ってそれを本当の姿だと思っていることを無くしていきたいと思いません。偏見ということにもつながると思いますが、自分の目でしっかり見て、体験することはとても大切だと今回のバンコク派遣で思いました。今回私が身をもって感じたタイの良さを友達や家族や周りの人たちに伝えていきたいです。また、バンコクに一緒に行った他校の子たちもとても大切な友達になりました。最初



最初は不安がいっぱいだっただけど、心強い仲間がいてくれたおかげでその不安もなくなり、楽しいという感情に変えることができました。これからも、たくさんの人と出会う機会があると思いますが、その一つひとつを大切にしていきたいと思えます。最後に、この機会を与えてくださった方々に心から感謝を申し上げます。愛知県庁の方、家族、先生、バンコク派遣に携わってくれたすべての人のおかげで今回の素晴らしい経験を得ることができました。これが当たり前ではないことをしっかり心にとめておきたいです。この機会を無駄にせず、今後活かしていけるよう自分なりに頑張っていきます。

# 愛知県高校生訪問団バンコク派遣事業 2023 実施結果報告書

Aichi-Bangkok High School Student Exchange Program 2023 Report

愛知県立一宮西高等学校 梁取大河

## レポート構成

1. はじめに
2. 各日程振り返り (Day1－Day6)
3. タイの食文化
4. 発展途上国と SDGs
5. 最後に
6. 参考文献

## 1. はじめに

私は、語学力は勿論のこと、将来必ず必要となる国際感覚や自己表現力を身に付けたいと思いこの派遣事業に参加した。そういった力を獲得するために、タイでは、積極的に現地職員や高校生などとコミュニケーションを取った。また、タイと日本の文化の違いを意識し、疑問点は直ぐに解決を試みた。そういった意識の中で見つけた多くの発見や、派遣事業での貴重な経験を以下にまとめたいと思う。

## 2. 各日程振り返り (Day1－Day6)

### Day1

- ・ スワンナプーム国際空港着
- ・ ホテルチェックイン

フライトは6時間と長かったが、外の景色も楽しみながら過ごせた。機内食にもタイの食文化が反映されており、エビがリンゴの上に乗っていたり、お茶が甘かったりという文化の差異が早速見られた。機内食には、食文化が反映されやすいと感じた。タイ航空のサービスが素晴らしく、空の旅を楽しめた。

着陸のタイミングで、スワンナプーム国際空港の立地に驚いた。バンコク中心部から30km東方のサムットプラカーン県バーンプリー郡にある国際空港であるのだが、セントレアのように海に面しておらず、市街地に位置していた。東南アジアのハブ空港となっており、離着陸する便の数も多いため、騒音問題が深刻であると思った。スワンナプーム国際空港は、旅客ターミナルビルの総床面積 **563000 m<sup>2</sup>**と世界一の広さを誇り、免税店やレストランなども充実していた。タイの近未来発展の象徴となっており、重要なポストを担っている空港であると感じた。また、都市部へのアクセスの良さも実感した。(高速道路と BTS)

バンコクセンチュリーパークホテルに着くと、バンコク都による「良い環境」をテーマにした **Welcome Reception** が行われた。自己紹介では、タイ語やサッカーのエピソードトークを交えながら話せたので、良かったと思う。バンコク都の方々に温かいお言葉とおもてなしを頂き、光栄であった。食事メニューが提示してあったので、タイの食文化についても理解を深めることができた。



画像 1 スワンナプーム国際空港



画像 2 welcome reception

## Day2

- ・バンコク副都知事表敬訪問（バンコク都庁）
- ・タイ文化体験（ルンピニーユースセンター）

バンコク都庁に到着するまでの道中に、バンコク市街地を車内から見て回った。王宮周辺ということで、多くの寺院を見ることができ、サナム・ルアンという王宮前広場や王宮の一部を見るだけでも神聖さがひしひしと感じられた。また、王宮周辺は僧侶が街中を歩いており、仏像の店やお供えの花屋（黄色カーネーション）が多くあるなど町と仏教の結び付きを強く感じた。さらに、防衛省や最高裁判所などの中枢機能も王宮周辺にあり、タイの王族は開放的かつ権力も掌握しているという印象を持った。

ワット・スタットという寺院も、道路を挟んで見たのだが、遠くからでも煌びやかな外装が楽しめた。本堂に入り、内装も見てみたいと思った。また、隣接する超巨大ブランコでは、1930年ごろまで儀式が執り行われていたと知り驚いた。

バンコク副都知事表敬訪問では、貴重なお話を頂くだけでなく、質疑応答の時間も下さった。そこで、バンコク都が行っている **SDGs** に関する取り組みを質問すると、メインストリートへの植樹活動や、動物保護に力を入れているということだった。確かにバンコク都庁の周辺には、多くの木が植えられていた。また、「環境について共に取り組もう」という趣旨のことを言ってもらえて光栄だった。今回の派遣の重要性を再認識するプログラムだった。

ルンピニーユースセンターでは、温かいスタッフの方にタイ文化を教えてもらった。タイダンスや香水作りなどを、英語レクチャーを交えながら楽しめた。

特に楽器演奏では、タイの伝統音楽に触れることができ、貴重な経験であった。自分が行った楽器は、後日、現地の高校生が、路上で弾き語りをしているのを発見し、感銘を受けた。この楽器は、王宮で奏でられるためのものであり、日本の雅楽との共通性を感じ取れた。



画像3 ワット・スタット



画像4 ユースセンター

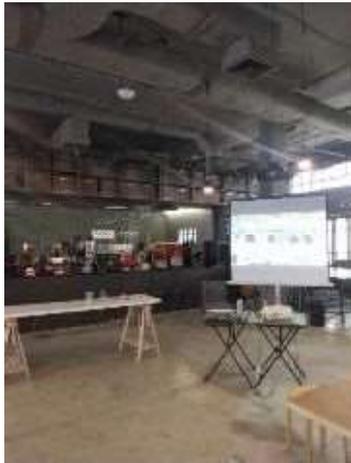
### Day3

- ・ Fab Café TCDC
- ・ スーパーマーケット

Fab Café とは、世界各国に展開している日本発のイノベーションとカフェが融合した施設である。タイには、3D プリンターや VR ヘッドセットなどが完備されており、クリエイティブな空間が広がっていた。また、Fab Café は単純な物作りで完結せず、廃材の積極的活用や、世界規模での生産・販売を行っていた。私は、どのように利益を上げているかという質問をした。その返答によると、お金こそ国家間を移動しないものの、技術、人の移動は積極的に行い、世界規模でのビジネスを展開しているそうだ。また、収益は、Café 使用料や企業の支援金で賄っているそう。クリエイターが好きなものを作りながら、環境にも優しく、利益も上げられる魅力的なビジネスモデルだなと感じた。

夜には、現地のスーパーマーケットへ行った。日本のお菓子や調味料が多く売られていた一方で驚きもあった。タイでは、大麻が合法化されているため、マリファナ入りの飲み物が普通に売られていたことだ。また、スイカ（一玉 30 バーツ、約 120 円）やドリアンの安さにも驚いた。現地の人の話によると、気候が、一年中スイカなどを育てるのに最適だからということだ。

スーパーのとなりの漫画ショップでは、日本の漫画が多く売られており、アニメ文化の偉大さを痛感した。バンコク都の方も、日本の漫画をよく読むそうだ。



画像 5 Fab Café



画像 6 大麻入りドリンク



画像 7 日本の漫画

#### Day4

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ・植樹活動（ベンジャキティ公園） | ・タリンチャン水上マーケット     |
| ・コークランコミュニティ     | ・アジアティーク・ザ・リバーフロント |

植樹活動では、都市部に位置するベンジャキティ公園を訪れた。マラソンやドッグランなどが行え、市民の憩いの場となっていた。また、景観も美しく、入学・結婚祝いの写真を撮っている人も多くいた。池は貯水池ともなっており、災害対策にも一役買っているようだ。発展途上のタイにおいて、都市部に巨大公園を建設するのは、相当な勇気と覚悟が必要であったと容易に想像できるが、環境整備として、非常に大きな意味があったと思う。日本は、経済発展を重視しすぎた結果、都市部の大気汚染や憩いの場の少なさなどの問題が、現在にまで及んでいる。タイが住み続けられるまちづくりを発展途上に行えたことは、近未来に多大なる恩恵をもたらすと感じた。そんな意味のある公園で、植樹活動を行えた事は、この上ない喜びであり、今後も、環境に配慮した生活を行おうという意識を強めた。

タリンチャンマーケットでは、ココナッツやマンゴーなど常夏の定番スイーツや、店員との割引交渉などが楽しめた。店舗を出すうえで規制が弱いのか、ブランドのロゴをあしらった所謂パチモンが、多く売られていた。屋台で、民間人の間で売り買いされている分には、さほど影響はないが、大量取引となると詐欺などにもつながってくるので、規制強化が必要と感じた。また、店員は優しい人も多いが、お釣りを騙し取ろうとした店員に遭遇した。指摘すれば返してくれたが、タイ人の生命力や底力のようなものを感じた一幕だった。さらに、観光客相手だと、値段を高く設定してくることが多く、値段交渉は必須であった。相手側も、商売に関する英語は話せたので、積極的に交渉をした。



画像8 植樹活動



画像9 タリンチャンマーケット

コー克蘭コミュニティでは、自給自足システムについて理解できた。50ほどの各家庭からゴミを分別回収し、データベース管理することで、利益の一部が島民に還元される仕組みとなっていた。利益のあげ方としては、企業サポートがあるので、そこからの資金・技術面サポートを頼りに、廃材を使った製品（堆肥で育てた果実、シャンプー、植木鉢など）を販売することだった。植木鉢の製造を体験させてもらったが、簡単にでき、面白い取り組みと感じた。利益追求だけでなく、キノコの栽培や堆肥作りなど、日常的に環境意識が高く、見習うべきと感じた。日本では、ゴミを正しく分別して捨てるだけでも、活用方法は見ることができず、付加価値もない現状にある。そこで、コー克蘭コミュニティのように、ゴミの見える化とデータベース化による付加価値を生じさせるシステムを導入するとよいと感じた。市町村単位から、スモールステップで推進させていくべきである。

アジアティーク・ザ・リバー・フロントについては、クルージングに関して書きたいと思う。クルージングでは、チャオプラヤ川沿いを2時間ほど旅した。ここでは、サンセットとタイの風を感じて、最高の時間を過ごした。兩岸には、高層ビル群や寺院が立ち並んでいた。高層ビル群からは、バンコクの発展の凄まじさを感じ取った。寺院については、ワット・アルンやワット・ポーなど格式高い建築物が楽しめた。ワット・アルンについては、夕陽と重なり、まさに「暁の寺」という感じだった。三島由紀夫が、この寺院をモデルに、「暁の寺」という小説を書いた意味が分かった気がした。しかし、チャオプラヤ川の水質は決して良いとは言えず、水質浄化の必要性も同時に感じた。



画像 10 コークランコミュニティ



画像 11 廃材プラスチック



画像 12 ワット・アルン



画像 13 ワット・ポー

## Day5

・ウィチュティット高校訪問  
(送迎会、文化交流、スポーツ交流)

ウィチュティット高校では、到着するや否や、ブラスバンドによる音楽演奏があり、壮大な歓迎をしてもらった。文化交流では、カノムクロックと呼ばれるたこ焼きに似たご飯を作った。ココナッツミルクが強く、スイーツ味が強いなど感じた。この食べ物の存在が、たこ焼きのタイ進出に一役買ったそう。また、伝統衣装を着て、ソンクラーンの灯籠に模したものを作る体験も楽しかった。ソンクラーンとは、タイの旧正月に行われる祭りのことである。2023年はコロナウイルス蔓延後初開催ということで、現地の人も楽しみにしているそう。また、スポーツ交流では、ムエタイやチェアボールに慣れ親しむことができ良かった。実際に、ムエタイの試合観戦もしてみたいなと思った。

日本からの文化伝承として、自分はけん玉を担当したが、皿に玉が乗った時の喜びは万国共通であった。シンプルで、タイの方にも伝わりやすい遊びと実感し、日本の昔遊びの魅力に気づかされた。高校訪問では、様々な出会いがあり、この出会いを大切にしたいと思った。

夜には、地元のセブンイレブン（タイのコンビニはほとんどがセブンイレブン）に行った。海外のコンビニは、生活感が浮き彫りになっているので個人的に好きなのだが、タイのコンビニも面白かった。ドリンクをオーダーするところが、レジと別にある、エナジードリンクが原液で売られているなどの日本との違いがあった。



画像 14 カノムクロック



画像 15 バディとの 2 ショット

## Day6

- ・寺院訪問
- ・企業訪問（豊田合成）

寺院訪問では、ホテル近くのワットプララム 9 という簡素な寺院へ訪れた。規模こそ大きくないものの、タイの信仰心や僧侶へのリスペクトなどを垣間見ることができた。寺院内には、菩薩が中央に構え、花や装飾品が煌びやかに飾ってあった。日本の寺院が質素で地味なのに対して、タイの寺院は豪華で派手な印象を持った。同じ仏教であっても、地域ごとに発展の仕方が異なり、形態に違いがあると知った。また、日本のお坊さんが家に帰ってからは、普段着に着替えるのに対して、タイの僧侶は袈裟という衣服を常に着用していることも分かった。タイは日本に比べて戒律が厳しく、仏教に対する信仰心が強いことが感じ取れた。

豊田合成アジアまでの移動時間が長く、外を見ていたのだが、交通面に関しても、様々な気付きがあった。タイは、車優先であり、歩行者がいてもスピードを緩めることは皆無である。また、バイクや小型車両が割り込んでくるのが非常に多かった。交通事故に遭遇することはなかったが、現地の車を見ると傷だらけ

であったので、事故が日常茶飯事なのだろうと思った。タイのさらなる発展には、道路や交通ルールの整備が必要であると感じた。また、トゥクトゥクや二人乗りバイク（ヘルメットなしの観光客を乗せている）、荷台に人が乗ったトラックなど東南アジア独特の車両も見られた。一般車両は、日本の自動車メーカーのものが大半を占めていた。十数年前に、日本でリリースされた車種が多かった。

さらに、サッカー選手の看板が多く、そのわけをバンコク都職員の方に聞くと、タイが近年サッカーに力を入れているということだった。クラブチームがいくつか誕生し、グラウンドの整備などが進められているようだ。JリーグやFリーグでも、タイ出身の若手選手が多くプレーしており、サッカー育成に舵を切った効果がでてきているように思える。街中でサッカーを楽しむ人も多く見受けられた。

企業訪問では、愛知県企業の海外進出の実態を理解することができた。自分は、稲沢市に住んでおり、エントリオという豊田合成が持つ体育館も近くにあるため、清須市に本社を構える豊田合成は身近な企業であるのだが、企業規模の大きさに驚いた。17の国と地域に、61グループの拠点があり、豊田合成アジアは、東南アジアの中核であるということだった。企業訪問前は、開発設計は日本人、製造ラインはタイ人というように分かれて仕事をしていると捉えていたが、タイの文化尊重・意見尊重をしながら製造を進めていると知った。工場見学では、タイ人の社員が発明した製造ロボットも見ることができた。

TG Spirit という会社の規律はありながら、現地の文化を取り入れていく理念は素晴らしく思った。技術面では、80%以上がロボット工程となっており、東南アジアに拠点を構える理由が、人件費削減という単純な理由から、優秀な人材確保へと変革しているなど感じた。疑問点として、東南アジアでは、ガソリン車が多いが、EV化が加速したとき部品メーカーはどういった対応をとるのか知りたかった。（EV化で部品数は10分の1）最後に、豊田合成アジアでは、私の同級生の父親が部長をしており、身近な人が活躍しているのを目撃し、海外で働くことを近く感じられた。近い将来、海外で、理念や情熱をもって働きたいと思った。



画像 16 寺院訪問



画像 17 交通の様子



画像 18 エントリオ

### 3.タイの食文化

#### 構成

- A：タイ料理について
- B：タイの果物事情
- C：日本食の進出

#### A タイ料理について

タイ料理では香辛料や香味野菜が多用されており、独特な風味をしていた。青唐辛子を中心とした唐辛子、胡椒により辛味の主張が強く、スパイシーな食事を楽しめた。自分は、辛味に強いため、おいしく感じたが、食べる人を選ぶ料理だなと感じた。また、エビやナンプラーを中心に海鮮とのつながりも濃かった。エビを使った料理は、タイ南部で発展したそうで、今回の派遣でも楽しめた。さらに、香りづけとしての、レモングラス、コブミカン、パクチーなどもタイ料理を語るうえで捨てられない。これらの香辛料は、料理とともに運ばれてきて、好きなだけかけるといふ店が多かった。タイ料理は、単純に辛いのではなく、各調味料が交わりあった「魅惑の辛さ」だった。

食事方法としては、箸は使わず、スプーンとフォークを用いる。東洋式を目指したが、ナイフはあまり浸透しなかったようだ。以下に、実際食べたものの一部を紹介する。



Century Park Hotel での食事。写真に写っているプレートには5種あり、ココナッツ入りのチキンスープ、スパイシーカレー、魚料理、ステーキと野菜炒め、カシューナッツとエビ料理と並ぶ。辛い物はあまりなかったが、ナンプラーが効いていて本格的な料理を楽しめた。ドリンクのコーラでは炭酸が弱かった。タイの炭酸飲料は、全て炭酸が弱く、そのような食文化と捉えた。



中華・タイ料理レストランでの食事。なぜ相異なる二つの料理が楽しめるのか疑問に思ったが、実は、タイ料理は中国系移民の流入をきっかけに中華料理から派生したようだ。そのため、このレストランでは、トムヤムクンなどのタイ料理とチャーハンなどの中華料理がどちらも楽しみ、舌が忙しかった。



ソムタムという青パパイヤを使ったサラダ。どのレストランでも、食事の最初に出てきた。鼻に抜けるライムと唐辛子の辛さやトマトの甘みが心地よく、個人的にタイ料理ナンバーワンの一品。青パパイヤの食感も最高だった。タイ人のソウルフードだそう。



ウィチュティット高校での昼食。餃子はタイでも多く食べられているそう。メインディッシュには、香辛料が多く添えられており、七味（タイ人にも通じた）、ライム、ナッツ、野菜などがあつた。デザートは、カオニャオ・マムアンといい、マンゴーともち米をココナッツミルクにつけて食べるというもの。タイの高校生に、ご飯がスイーツになる驚きを話した。

## B タイの果物事情



上の写真は、タイのスーパーマーケットの様子である。ホテルのバイキングでも、パパイヤ、スイカ、パインが毎日食べ放題だったことが示すように、タイでは、それらがリーズナブルな価格で手に入る。一方で、ミカンやイチゴなど適切な温度管理が必要なものは値が張っていた。ドラゴンフルーツや竜眼、ココナッツなど、日本ではなかなか売られていないものもお目にかかれた。



左の写真は、地元のスーパーマーケットで購入し、ホテルで食したジャックフルーツというものである。人生で初めて食べたのだが、アップルパイに似た味と感じた。しかし、想像した味と異なり、おいしく食べることはできなかった。世界最大の果実といわれ、日本で新鮮な物を食べるのは難しいので、良い経験となったと思う。ジャックフルーツ以外にも、スーパーで買ったリンゴを食べた。生のフルーツを、日本国内に持ち帰ることは出来ないので、多くのフルーツを現地で食べられて良かった。右の写真のココナッツも、味わえてよかった。

## C 日本食の進出

タイは、日本企業も多く、親日国であるため街中にも日本語が多いという印象を受けた。それは、食にも共通しており、日本のチェーン店並びに日本食レストランが多かった。あるショッピングモールでは、日本食が 5 店舗ほど連続していた。さらに、下の写真のような、愛知県発祥の飲食店も見られた。そのため、タイ人は日本食への理解が強く、カツ丼やラーメン、名古屋めしなど日本の固有名詞のまま料理名が浸透していた。

しかし、それらの日本食は、タイ人が好むように多少の変化が加えられていると感じた。味噌カツに唐辛子がついてくる、寿司のネタにサーモンが多いなどだ。また、タイ人が経営していると思われる日本食レストランの店名は、不自然なことが多かった。(柴犬、ねた、など)



ウィチュティット高校の学生へ、愛知県の高校生が渡したお土産のすべて。タイの学生は、煎餅になじみがない様だった。一方で、見た事があるお菓子もあるようだった。タイのスーパーやコンビニでは、日本のお菓子をいくつか発見することができた。しかし、タイで作られているお菓子より高かった。

## 4. 発展途上国と SDGs

タイは、日本を中心とした先進国の技術面・資金面支援を活かしながら、工業化に成功し、経済発展を進めている発展途上国である。今回の渡航で感じた、経済発展と環境配慮の両立やパートナーシップなどを SDGs の観点から述べたい。

### 取り上げる SDGs 項目

5	ジェンダー平等を実現しよう
6	安全な水とトイレを世界中に
14, 15	海・陸の豊かさを守ろう
17	パートナーシップで目標を達成しよう

### 5 ジェンダー平等を実現しよう

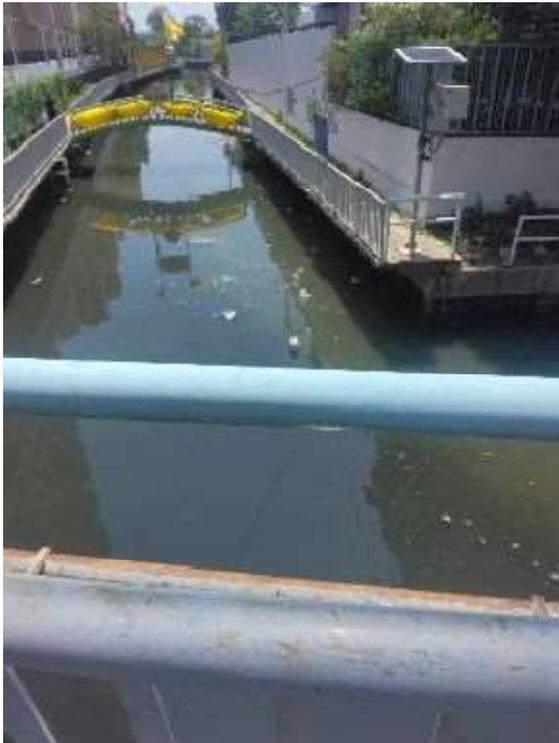
スワンナプーム国際空港で驚いたことの一つに、トイレに男女共通色が使われていたことがあげられる。日本であれば、女性は赤色、男性は青色というイメージがあるが、タイでは、どのトイレにおいても男女同系色が使われていた。バンコク都職員にそのわけを尋ねると、男女での色の区別化は、先入観によるもので、タイにとっては同系色が当たり前のことだった。このように、性別間の区別が少ないタイでは、トランスジェンダーにも肯定的である。

タイは、ニューハーフが多い国として有名である。その発端は、女性は兵役義務を課されないため、女性化する人が増えたという説が有力である。今回の派遣でも、ニューハーフショーの看板や、劇場を見つけた。さらに、飲食店や市民施設などでもニューハーフの方々は働いており、その環境に自然に溶け込んでいるように思えた。

### 6 安全な水とトイレを世界中に

タイでは、浄水場や下水道の整備が進んでおらず、水道水を直接飲むことはできない。水の汚さを、肉眼で確認できる蛇口までもが存在した。そのため、タイ人は、ペットボトルに入れて売られているミネラルウォーターを飲むのだが、プラスチックゴミが大量に出てしまうと感じた。実際に、正しく処理されず街中や川に投棄されているものを多く見かけた。また、私たちにもペットボトルが毎日供給されたのだが、以下の写真のように、超過で、多くが無駄になってしまった。環境に悪い今のシステム改善のため、下水道や浄水場の整備が必要だと思った。

また、トイレにおいてもトイレトペーパーを流すことが出来ず、備え付けのゴミ箱に捨てるタイプのところがあり驚いた。不衛生かつ、不便であったので、トイレの整備も求められると思った。



ゴミの投棄



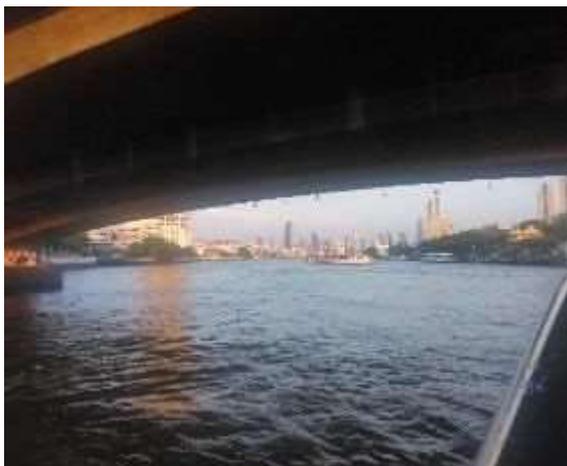
超過した水

#### 14, 15 海・陸の豊かさを守ろう

和食に魚料理が多い事と同様に、タイ料理でも魚が多く使われていた。しかし、それらは、タイの海や川でとれたものではないということだった。何故なら、タイの海や川はゴミが多く、産業廃棄物やマイクロプラスチックを体内に含んだ魚が多く生息しているからだ。実際に、チャオプラヤ川には、巨大なゴミが多く浮遊していた。貴重な漁業資源が無駄になっており、改善が必要だと感じた。具体的には、産業廃棄物処理に関する規制強化を行う、下水道整備を行い雑排水の処理を適切に行うことなどがあげられると思う。

バンコクは、名古屋よりも発展しているように思えた。しかし、それは表面上だけであり、実は光と闇がある。発展しているバンコクの空には、うっすらとPM2.5の黄色い層が見られた。PM2.5の人体に与える影響は大きく、私もタイでは、気管支を悪くした。持病持ちの方にとっては、致命傷になりかねないと思った。陸の豊かさを守るために、工場や焼却場の煤煙を減らす取り組みが必要である。さらに、都市部においても、路地に入るとスラム街が形成されていた。急速な都市発展には、二面化がつきものであるが、誰一人取り残さないために生活支援が必要だと思う。また、薬物の合法化で、断続的な治安維持をするのではなく、違法化し、持続的に発展できる国を作っていく方がよいのではないかと思った。

現在、日本では自動車のEV化が加速している。しかし、タイでは、EV車を見つめることができなかつた。ガソリン車がほとんどで、二酸化炭素を多く排出していた。EV化が環境に優しい事は一目瞭然だが、発展途上国での普及は難易度が高く思える。第一に、価格が高く、富裕層の購入にとどまるだろう。第二に、充電スポットの拡充や道路整備など国をあげた施策となることだ。欧州をモデルケースに、ハイブリット車などから順を追って、EV化を進めていくことが最適解に思われる。



チャオプラヤ川



ガソリン車

### 17 パートナシップで目標を達成しよう

今回の派遣のような、国と国が交流しあう活動は、SDGsの達成に向けて、必要不可欠であると思う。このような活動に今後も、積極的に参加していきたい。

また、海外に進出した日本企業が、産業廃棄物処理の方法を的確に伝授し、発展途上国の環境保全の中核を担う必要があると思う。

## 5.最後に

各日程振り返りや二つの些細な研究（タイの食文化・発展途上国とSDGs）の執筆をする中で、バンコク派遣事業にて、多くの貴重な経験をさせて頂いた事を再実感した。この経験を通して獲得した、国際感覚と自己表現力を活かしながら、ユニークで斬新な意見を積極的に発信していきたいと思う。また、国際関係・環境への活動を継続していきたい。そして、将来的にはグローバル人材として、社会や環境保全に貢献したいと思う。

また、今回の派遣事業では多くの方々にご協力を頂いた。愛知県並びに愛知県国際課、バンコク都、各施設の職員やスタッフ、豊田合成の社員、ウィチュティット高校の先生並びに生徒、引率の先生方、一宮西高校の先生方、家族などに多大なる感謝を伝えたい。

## 6.参考文献

- ・るるぶタイ バンコク・アユタヤ 24
- ・読むだけですっきりわかる世界地理 後藤武士
- ・FabCafe Global - What do you Fab?  
<https://fabcafe.com/>
- ・タイ観光案内サイト | 【公式】タイ国政府観光庁 (thailandtravel.or.jp)  
<https://www.thailandtravel.or.jp/>
- ・ともに開発を。貢献の道を進む タイ | 広報誌・パンフレット・マンガ・カレンダー・ラジオ | JICA について - JICA  
[https://www.jica.go.jp/publication/mundi/1907/201907\\_08.html](https://www.jica.go.jp/publication/mundi/1907/201907_08.html)
- ・タイ人にとっての王様はどのような存在なのか（1） | タイの文化と生活 (thai-culture-life.net)  
<https://thai-culture-life.net/?p=659>

## 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業 Aichi-Bangkok High School Students Exchange Program

愛知県立津島高等学校 福留そら

### 最初に

私はこの派遣事業を通して「日本からアジア」という広い地域に視野を広げ、今後の自分に活かしたいと思い参加を決めました。結果的に視野が広がっただけでなく、同じような意識を持っていて、お互いに高めあうことができる仲間が12人もできたことをとても嬉しく思います。

### Day1 ・出国 ・ホテル

約6時間のフライトを経てスワンナプーム国際空港に到着しました。タイの地に足を踏み入れると、暑くカラッとしている空気がきました。日本よりも湿度が低いため、日本の夏とは少し違う暑さでした。空港からホテルへ向かうバスの中では日本とは違うタイの景色を見て「タイに着いた」という実感が湧きました。また移動中のバスからの景色もすべてタイ語で書かれていたため、外国に来たというワクワク感がより高まりました。

またタイでの初めてのごはんである夕食はタイの伝統料理などが数種類並びました。どの料理にも共通することは、においの癖が強いということだと思います。日本では使っていない食材や調味料が入っているからだと思います。そのにおいで最初は口に入れるのを少しためらいました。しかし、口に入れてしまえばどの料理も美味しく、タイを感じることができました。個人的にはココナッツスープが一番美味しかったのですが、口に合わない人もいてやはり味覚は人それぞれだということを再認識しました。



飛行機からの景色



バスからの景色



夕食

### Day2 ・バンコク都庁 ・ルンピニーユースセンター ・サイアムスクエア

バンコク都庁へ行き、副知事の方を訪問しました。最初はとても緊張していましたが、

バンコク都庁の方々が優しくフレンドリーに接して下さったおかげで、落ち着くことができました。タイ語で自己紹介をしましたが、ちゃんと伝わるか不安でした。しかし、皆さん相槌をして下さったので「少しは通じたのかな」と思い、嬉しかったです。また、かわいい象の刺繍がしてある鞆をもらいました。

午後にはルンピニーユースセンターという場所でタイの文化体験をしました。踊り、楽器、雑貨、お面の4つを体験しました。1番印象に残っているのは楽器です。「キム」とい楽器を体験しました。琴と少し似ていて弦をたたいて音を鳴らします。最初はいろいろな音が混じっていて綺麗な音とは言えませんでした。練習していくうちにだんだん綺麗な音になっていくのが楽しかったです。教えて下さった方にも「かなり上達したね!!」と言ってもらえて嬉しかったです。

夜にはサイアムスクエアという大きいデパートへ行ったのですが、中にあるお店がほとんど韓国に関係していて驚きました。日本でもk-popは人気ですが、タイでも人気だということが分かりました。夕食を食べたしゃぶしゃぶのお店も韓国らしい雰囲気でした。



バンコク都庁



伝統楽器体験



サイアムスクエア

### Day3 ・Fab café ・スーパーマーケット

Fab café TCDC という東京発のクリエイティブコミュニティへ行きました。「Fab」という言葉には「Fabrication (ものづくり)」と「Fabulous (愉快的な、素晴らしい)」の2つの意味が込められているそうです。それを楽しく、分かりやすく伝え、広める場所です。ここで私たちはプラスチックについて学びました。タイではプラスチックを7種類に分類するということを聞いて驚きました。プラスチックにも種類があるということは分かっていましたが、それを分別するということが初めて聞きました。また、再利用しやすいものと再利用しにくいものがあるということ、2050年までにカーボンニュートラルの実現など環境問題について新しいことを聞くことができ、とても勉強になりました。

私たちはペットボトルの蓋を再利用して瓶の蓋にしました。完成するまでにたくさんの機械を使い時間をかけました。プラスチックを新しく作ることは比較的楽ですが、処分や再利用するのはとても難しく、大変であることを肌で感じました。私たちは軽くて便利なので日々プラスチック製品を大量に使っています。しかし地球への負担はかなり重いで

す。プラスチック製品を使うのと使わないのではどちらが環境に良いのかは一目瞭然です。今の生活にはプラスチックは必要不可欠ですが、少しでも「脱・プラスチック」ができるよう自分の生活を見直したいと思いました。

お昼にはタイのお肉料理を食べました。ソースが4種類あり、スイートチリソースが一番のお気に入りになりました。中には青唐辛子など香辛料と豚のひき肉を混ぜて焼いた料理を食べたのですが、あとから辛さがきて大変でした。バンコク都の方から「Anything more?」とずっと言われ、おかずを大量にもらいました。私は「もっと食べなさい」という意味かなと思っていました。実際はタイの人は米だけで食べる習慣がなく、おかずと一緒に食べるのが普通だそうです。そのため、米だけ食べていた私を不思議に思って声をかけてくれたそうです。

夕方にはタイのローカルなスーパーマーケットに行きました。お菓子の棚を見ると箱がつぶれていたり、挟まって商品が取れなかったりしました。日本のお店は丁寧に配置してくれていることが分かり、改めて感謝しました。日本のお菓子がたくさん売られていて「ここは日本なのか」と思うてしまうほどでした。



Fab café



昼食



スーパーマーケット

#### Day4 ・ベンジャキティ公園 ・タリンチャン水上マーケット

・コー・クラン・コミュニティ ・アジアンティーク・ザ・リバー・フロント

ベンジャキティ公園で植樹活動を行いました。初めて木を植えたのでワクワクしました。今までにカンボジアの大使館の方などたくさんの人が植樹をされたそうです。また、歩いている最中にタイの学生が卒業写真を撮っていました。あとから分かったのですが、タイでは大学生も制服を着ており私が公園内で見かけたのは大学の卒業生だったようです。制服の上に「チュットクルイ」というガウンを着ていました。半透明の生地には袖などには金色の布があり、とても華やかでした。

タリンチャン水上マーケットでは買い物をしました。商店街と似ていて店員さんに値下げの交渉ができます。もとの値段が安いので、あまりする必要はないと思います。ここですれ違いざまにタイの人から「かわいい」と言われびっくりしました。タイの若者の間では「かわいい」という単語が流行っているそうです。日本語で話しかけると日本に興

味を持ってきている気がして嬉しかったです。

午後からは環境学習のためにコー・クラン・コミュニティを訪問しました。小さな島全体が環境保全に努めており、リサイクルのシステムが確立されている場所です。今まで私たちが訪れた場所はとても発展していて高層ビルが多かったのですが、ここではあまり発展した様子はありませんでした。バンコク都内の貧富の差を少し感じました。実際に行われているリサイクル活動は肥料などを作り、それを使って野菜などを栽培する、リンスなどを作り売るといった自給自足に近いものでした。こういう活動が私たちが目指している持続可能な未来にとって重要なものなのかもしれないと思いました。

夜はアジアンティーク・ザ・リバー・フロント行きました。クルーズ船でディナーを食べたり、ショッピングができて楽しかったです。クルーズ船ではライブが行われていて、聞き覚えがある日本の歌を耳にしました。また、ショッピングではドリアンチップスなどタイの名産品が多く買えました。中でも、マンゴージュースが美味しかったです。



植樹活動



コー・クラン・コミュニティ



タリンチャン水上マーケット



クルーズ船



マンゴージュース

## Day5 ・ウィチュティット高校

ウィチュティット高校を訪問しました。盛大な出迎えに怯んでしまいましたが、それよりも歓迎されていることが嬉しかったです。午前はお菓子作りやタイの伝統的な衣装を着

るなど文化交流をしました。私は体調が優れず午前中はあまり活動ができませんでした  
が、バディの子がずっと一緒にいてくれました。そのおかげでお互い仲良くなること  
ができました。お昼にはマンゴーが出てきたのですが、バディの子に「マンゴーにココナツ  
ミルクをかけて米と一緒に食べてね」と言われ、とても驚きました。タイの人はスイ  
ーツに米をいれたり、一緒に食べるのが当たり前だそうです。日本ではなかなかない  
ので最初は躊躇しましたが、意外にも合うということが分かりました。バディの子  
からタイ語を教してもらったり、写真を撮ったりして楽しく過ごせました。

午後はムエタイを見ました。実際に見ると迫力がすごかったです。次に日本側から昔  
の遊びである福笑い、けん玉、メンコの3つを紹介しました。私はメンコ担当だ  
のですが、英語での説明に苦労しました。しかし、説明がきちんと伝わると「自  
分の英語が伝わった」「ちゃんと理解しようとしてくれる」と思い、とても嬉  
しかったです。結構難しい遊びにもかかわらず、何人か成功していて驚きました。

この後にチェアボールというスポーツをしました。私のチームにはほとんどタイ  
の子しかおらず、ルールを聞くのもすべて英語でした。しかし、チームメイト  
が丁寧に教えてくれたおかげですぐにルールが理解でき、楽しめました。チ  
ームのリーダーから「日本語でgreenはなんて言うの？」と聞かれ「みどり」と  
答えたら、チーム名が「みどり」になりました。日本のことをリスペクトしてく  
れて嬉しかったです。試合中に感じたことはスポーツには国境がないこと  
です。たとえ住んでいる国が違ったり、使用している言語が違ってもスポ  
ーツは人間を1つにしてくれるものだと感じました。たくさんの子と  
Instagramのアカウントを交換したのですが、「楽しかった」「また会おう」「私  
が日本に行くときはよろしくね」などのメッセージがもらえました。最初  
は仲良くできるか不安でしたが、自分から頑張って話しかけること、失敗  
を恐れないこと、いつでも笑顔でいることを心がけることで新しい世界が  
切り開けることが分かりました。引率の先生である大谷先生がおっしゃ  
られていた「ファーストペンギンになりなさい」という言葉を身をもって感  
じました。



タイの伝統衣装



メンコ



メンコ



チェアボール 集合写真



試合中

### Day6 ・寺院 ・豊田合成アジア

朝は寺院に行きました。日本の寺院とはちがい、カラフルで大きな写真も飾ってありました。日本とタイは同じ仏教でも、日本は大乘仏教でタイは上座部仏教なので違いが出たのだと思います。タイ人にとって寺院は身近なものなので、日常的に礼拝する人も多いそうです。

豊田合成アジアへ行きました。豊田合成アジアでは KTK 活動といって人を助け、注意し、感謝するという取り組みをしています。この活動は会社だけでなく学校や家庭でも行うことができる素敵な活動だと思います。また、こうした活動が海外でもうまくやっていくための秘訣だと感じました。また社員が作業の効率化を目指して自分たちで機械を作るそうです。現場の意見を取り入れることができるので、かなり良いと思いました。進化し続けている会社という印象を受けました。



寺院 内部



寺院 外部

### Day7 ・帰国

スワンナプーム国際空港から中部国際空港へ。とても名残惜しかったです。このように思うことができたのも愛知県庁の方々、先生、バンコクの方々、そして仲間たちのおかげだと思います。本当にありがとうございました。

## 最後に

今回の派遣事業で「自分の英語が相手に通じることが嬉しい」ということが分かりました。今までは日本人の友達や先生、ALTの先生としか英語で会話したことがありませんでした。いざとなったら日本語が使える場面が多かったのですが、今回は共通の言語が英語しかないという状況だったので、ちゃんと会話ができるかすごく不安でした。特に私は英語の発音がうまくできないので余計に心配でした。しかし、ゆっくり丁寧に喋ることを心がけたら、ちゃんと通じました。通じた瞬間、とても嬉しくて楽しかったです。改めて「英語って面白い」、「もっといろいろな国の人と会話したい」、「もっといろいろな言語を勉強したい」と思うようになりました。

「日本からアジア」へ視野を広げることを目標に参加したのですが、これも達成できたと思います。日本のことしか分かりませんでした。タイに実際に行くことで「もっとたくさんの国について知りたい」と思うことができました。同じアジアの国なのに今まで興味が持てませんでした。今回の事業でアジアの国々に対する自分の思いが強くなったように感じます。また、私は将来の夢が漠然としていて「国際関係の仕事に就きたい」くらいの願望しかありませんでした。しかし、今回の派遣でお世話になった大人の方々を見ていたら「自分もこういう風になりたい」、「アジアの国々をつなぐ仕事がしたい」と思いました。その気持ちを無駄にしないよう今回学んだことを最大限自分の将来に活かしたいです。

今回この派遣事業で出会った方々に支えられて無事に終えることができました。本当にありがとうございました。今度は自分が支える側の人間になれたらいいなと思います。

# ขอบคุณค่ะ !!

## コップンカー !!

